

は し が き

言語センター長 尾形 弘人

『言語センター広報』第25号をお届けいたします。本年度より国立大学は第三期中期計画期間(H28-H33)を迎え、「実学、語学、品格」を伝統とする本学は、広く国際的な視点から地域の問題を考えることのできる「グローバル人材」の育成を目標に掲げました。その中心となるグローバル戦略推進センター(CGS)は、グローバル教育部門(旧国際交流センター)、産学官連携推進部門(旧ビジネス創造センター)、教育支援部門(旧教育開発センター)からなり、それぞれに中期戦略を策定し、目標の達成に邁進して参ります。言語センターもまた、教育支援部門の推進するEL(E-learning)、BL(Blended learning)に深く関わり、グローバル人材の基礎となる高い語学力と、異文化に対する深い理解を育むべく、次のような取り組みを計画しました。

ELを活用するTOEIC対策授業では、1年次の平均スコアの30点アップ(企業が大卒生に求める560点に相当)を目標としました。本年度は、入学時にPlacement Testを実施し、成績下位1/2の学生は後期の履修とし、前期中にonlineによる事前学習を課しました。来年度以降は、既存のオリジナル教材のレベル別再編成、TOEIC新形式に対応する教材の作成を考えています。他方、BLについては、平成26年度からの「実践型BL」に加え、新たに「進化したBL」に挑戦いたします。BLは「online学習と教室での対面授業」をブレンドすることを基本コンセプトに、前者は「①デジタルコンテンツ」、「②双方向通信」、「③異文化ビジネス教育」を柱とし、後者は「④外国語を通じた地域貢献」、「⑤小中高大全般における英語教育のBL展開」を目標とするものです。その内容については後述いたします。

さて、まずは感謝の言葉から今年度の報告を始めます。平成29年3月末をもって、大島稔特任教授と斐嶺特任教授がご退任なされます。大島先生は長らく本学の英語教育に携わるとともに、第4代言語センター長としてご尽力いただき、また外国語教育のICT化にもご貢献いただきました。中国語の斐先生は、わたくしと同期赴任ということもあり、第二外国語の運営に何かとご協力いただきました。お二人の先生に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

次に人事では、井上典子准教授(英語)が10月1日付で教授に昇任なさいました。また、ショーン・クランキー教授(英語)が9月末をもってサバティカルを終了し、代わってマーク・ホルスト教授(英語)がマラヤ大学にて研修に入りました。研究テーマは「Language Assessment and Materials Development」です。他の海外出張、研修については、末尾一覧のとおりです。

高大連携では、4月に小樽潮陵高校の生徒がBL教室やBLスタジオを見学しました。6月、7月には、中津川雅宣助教(CGS)が、厚別高校、室蘭清水丘高校を訪れ、出前授業「英語って必要なの?」を行いました。また、8月のオープンキャンパスでは、ジョン・サーマン教授とイブラヒム・ファロウク准教授が、それぞれ「Having Fun With English Learning」、「Using Technology to Motivate English Learning」と題する模擬授業を実施しました。

市民向けの「外国人による集中外国語講座」は、英会話(ジェイミー・ケンプ講師)、中国語(高翔講師)、ロシア語(スベヴァコフスキー講師)、スペイン語(岩澤マリア講師)、朝鮮語(韓然善講師)を開講しました。ケンプ講師には、小樽協会病院の職員を対象とする特別英会話講座もご担当いただきました。さらに、生涯教育に役立てていただくため、夜間主コースの外国語(独、

仏、中)に加え、外国文学、言語コミュニケーション論を「通常授業公開講座」としました。

7月に実施された教員免許状更新講習では、サーマン教授、大島特任教授が「英語による教授法(TETE)ーコミュニケーションな授業のための教材作成とヒント」をテーマに講習を指導しました。また、例年の「東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会」(第66回大会、北海道教育大学札幌校、8月)には、言語センターからは井上教授が出席しました。

次にBLの成果について報告いたします。上記の「①デジタルコンテンツ」ですが、教員作成の「デジタルタスク(課題)」としては、英語反転授業の事前配信、フランス語online文法要覧、留学生のための初級日本語タブレット教材、レポート作成講座の動画配信などを作成しました。他方、英語によるブック・レポートなど、学生がスタジオを利用して学習成果をまとめる「デジタルプロダクト(作品)」も、アクティブな語学として広がりを見せています。

「②双方向通信」については、昨年度に引き続き、トランシルバニア大学、ノースジョージア大学との双方向通信授業を複数回行いました。また、時差の問題を考え、ニュージーランドのオタゴ大学と試験通信も行いました。「③異文化ビジネス教育」については、平成22年度から続くクランキー教授の「English Lecture Series」のアーカイブの有効活用を検討中です。このシリーズは、様々な分野のゲストスピーカーを招き、海外ビジネスの下地となる習慣や文化について講演いただくもので、本年度の4回を加え、計90回を数えるに至りました。

新しく始めた「④外国語を通じた地域貢献」は、地域にしながら学んだ語学を実地で活かす試みで、井上教授の英語ゼミが、旧国鉄手宮線跡の遊歩道を紹介する観光パンフレットを作成しました。また、昨年に続く小樽水族館プロジェクトとして、サーマン教授の指導の下、留学生が外国語(英、中、朝)による館内アナウンスの作成に取り組んでいます。

また、「⑤小中高大全般における英語教育のBL展開」は、BL英語教育のノウハウを初等・中等教育に役立てる試みです。本年度は手始めに、本学の教職担当教員と本学出身の高校教員からなる「教職研究会」(第29回、12月10日)にて、言語センターとCGSとの共催で、ワークショップ「中等教育におけるICT活用の可能性にむけて」を実施しました。特別に場を設けていただいた小林敏彦新会長(アントレプレナーシップ専攻、英語)に感謝するとともに、今後の継続的なご協力をお願い申し上げます。また、本研究会では、前会長の大島稔特任教授の最終講義「商大における私の修行と授業」も行われ、先生の巧みな話術に会場は大いに盛り上がりました。

最後になりますが、平成28年6月9日、本学名誉教授の君羅久則先生(英語)が永眠なされました。国立大学の独立法人化の激動の中にあって第3代言語センター長を務められた先生は、しかしながら、穏やかな笑顔を絶やさないう先生でした。多大なるご貢献に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

海外出張・研修一覧(平成28年4月～平成28年12月末、渡航順)

○ダニエラ・カルヤヌ教授「打ち合わせ、資料収集」(ブカレスト大学他、H28.5.10.～5.21.) ○ジョン・サーマン教授「学会参加と講演のため」(トランシルバニア大学ブラショフ校、H28.5.12.～5.16.) ○ジョン・サーマン教授「アジア・オセアニア事情参加学生の引率」(オタゴ大学、H28.8.16.～8.21.) ○山田久就教授「アパル語、ロシア語、他の諸言語に関する資料収集」(ロシア連邦国立図書館他、H28.8.20.～9.10.) ○イブラヒム・ファロウク准教授「Second 21st Century Academic Forum Conference発表」(カリフォルニア大学他、H28.8.20.～9.10.) ○裴崢特任教授「外国語教授法等に関する調査、資料収集」(揚州大学他、H28.8.23.～9.21.) ○ダニエラ・カルヤヌ教授「打ち合わせ、資料収集」(ブカレスト大学他、トランシルバニア大学、H28.8.25.～9.24.) ○李賢峻准教授「日韓共同研究会参加」(世宗大学他、H28.8.29.～9.10.) ○副島美由紀教授「ベルリン国際文化祭参加、資料収集」(ベルリン祝祭劇場、ベルリン国立図書館、H28.9.5.～9.21.)